

自己評価及び外部評価結果

[事業所概要(事業所記入)]

事業所番号	0172901225		
法人名	有限会社 ほほえみゆたか		
事業所名	グループホーム すてきだね(ほほえみ館)		
所在地	旭川市東光15条5丁目2番12号		
自己評価作成日	平成23年1月25日	評価結果市町村受理日	平成23年2月22日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172901225&SCD=320
-------------	---

[評価機関概要(評価機関記入)]

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成23年2月9日

[事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)]

<ul style="list-style-type: none"> ・その人らしい過ごし方を尊重し、いつも笑顔の絶えない生活を支援している。 ・その人らしく笑顔で毎日を過ごせる様、家庭的な雰囲気職場作りを目指している。 ・入居者さんの安心安楽に努め、優しく、時には厳しく、家族の様なつながりを持ち見守りを行なっている。 ・家庭的な雰囲気である職場。入居者さん家族とのコミュニケーション作りにも積極的に取り組んでいる。 ・お昼寝という新たな取り組みにより、体調管理、生活のリズムの確保が出来た。お昼寝を希望されない方にも、ゆっくりを間わる事が出来精神の安定につながった。スタッフにもゆとりが出来た。 ・入居者さんがいつも笑顔で過ごせる様に家族の様に見守り、つながりを大切にしている。 ・一人ひとりのペース、生きがい、何よりも毎日楽しく安心して暮らせるよう心掛けている。 ・入居者さんとの信頼関係が築けるように日々の関わりを大切にしている。スタッフも笑顔で居られる様に心掛けています。 ・全ての入居者さんが安心して暮らせるように見守っている。 ・2ヶ月に1度の大正琴のボランティア訪問をして頂き楽しんでもらっている。 ・母体である山下整形外科PTの協力の下リハビリに通い体力低下の予防を行なっている。 ・皆さんが楽しんで頂ける催しを色々計画している。(バスを利用した外出・お祭り・花火大会等)

[外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)]

<p><チームでつくる介護計画> すべての職員が参加して、一人ひとりの生活歴や過去の大切な出来事等を把握し、サービスを提供する上での課題やその原因、どのように支援すればよいのかを意見を出し合い、検討して介護計画に反映している。また、全ての職員が計画されたサービス提供内容を理解し、その実践を記録に運動してモニタリングに活かしている。</p> <p><家族や地域との交流と地域貢献> 毎年事業所が開催する「ほほえみ祭り」では、町内会の回覧板で参加を呼びかけ地元の人々や家族、利用者等の交流が行われたり、大正琴や神楽太鼓などのボランティアや認知症実践者研修及びリーダー研修の受け入れで事業所の持つ機能の地域への還元が行われている。また、毎月「すてきだね通信」発行し、「認知症に関する一口メモ」を継続的に掲載して、地域の人達や家族等に認知症への理解や広報に取り組んでいる。</p>

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)		項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します	
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の間 関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
理念に基づく運営						
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	この地域で、その人らしく暮らし続けることを支えるサービスとして、独自の理念を作り玄関へ掲示、パンフレットに掲載している。ミーティングを通じ話し合い実践に向けて取り組んでいる。	事業所独自の理念をつくりあげ、ミーティングを通じて話し合い、理念を共有して実践につなげている。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会行事への参加、ボランティアの受け入れ、ホームの行事(ほほえみ祭)の参加呼びかけを行なっている。	ほほえみ祭りの開催や地域の花植え等への参加を通じて交流に努めている。また、近隣住民の悩み事や介護相談に応じている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	いつでも相談に乗られるように体制を作っているが、なかなか発信する事が出来ていない。			
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	話し合いを行い、サービス向上に活かせるようにしているが、まだまだ課題はある。	運営推進会議では、火災避難訓練や防火対策、地域との連携・協力について具体的に話し合っている。	今後は、年6回を目安に運営推進会議の開催を期待します。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護高齢課や地域包括センターと積極的に連絡、協力関係を築いている。	市担当者や包括支援センターとは、日常業務を通じて情報交換を行い、連携を深めるように努めている。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング等で話し合い、玄関の施錠及び、身体拘束は行っていない。	身体拘束廃止の研修会で管理者及び職員の共有が行われている。また、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に学ぶ機会は設けていないが、その都度、話をし防止に努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	参考になる書籍はいつでも見れるところに置いてあるが、定期的に学ぶ機会はなく、その都度話し合いを持っている。今後の課題として考えている。			
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明は十分に行っているが、その場限りで、しっかり理解・納得を得られているかは、完璧ではない様に思える。			
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱の設置している。すべての職員が意見を聞ける体制に努めている。意見があれば、反映するように努めている。	家族や来訪者等が管理者、職員並びに外部者へ意見や苦情等を言い表せるように苦情等の受付箱を設置し、市町村等の相談窓口の啓発ポスター等も掲示している。		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常、何でも言える様な関係を築いている。提案があれば、その都度反映できるように努めている。	ミーティングや日常業務通じて、意見や要望、提案を聞く機会を設けている。また、法人で職員の資格取得を奨励し、補助制度を作り支援したり、内部で実技の訓練や研修等支援をしている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現場管理者より、個々の実績報告を受け状況を把握し査定、賞与にて反映している。介護職員処遇改善交付金の申請を行い、介護スタッフに全て支給している。			
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の参加、勉強会を設け取り組んでいる。			
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、地域包括センターの勉強会に参加し交流を図っている。職員の交流の場を設ける事は今後の課題と考えている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	話し合いの機会を多く持ち、情報を得て、信頼関係を築けるように努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人と同様に話し合いを行い情報を共有し要望を聞き、良い関係を築けるように努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況、家族の要望を十分に見極め判断し対応するように努めている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その時々、その場面に応じて対応している。 とても良い関係を築けている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	初期段階で共に協力し、本人を支援していく事を話し合い同意を得ている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	努めているが、入居者本人が徐々に出来なくなって来ている。	入居年数とともに身体機能が低下してきているが、家族会とのクリスマス会やお祭り参加、町内の花植えやドライブ等馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立させないように声掛け等を行なっているが、利用者同士のトラブルがあった場合は、職員が間に入り、問題が拡大しない様に支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談にはいつでも対応できる体制は出来ている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話から本人の思い等情報を得て、アセスメントを行い、ミーティングを行い検討している。 出来ていない事もある。	センター方式を活用して、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。また、職員間で情報の共有が行われている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に情報を得て、把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日様子確認、日頃の何気ない行動を注意し確認して、心身状態の把握に努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族との話し合いは少ないが、スタッフの意見を反映した介護計画になっている。	すべての職員が参加して、一人ひとりの生活歴や過去の大切な出来事等を把握し、サービスを提供する上での課題やその原因、どのように支援すればよいかを意見を出し合い、検討して介護計画に反映している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録に記入し情報の共有は行なっている。時々情報が伝わらない事もある。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	母体である、山下整形外科でのリハビリの活用。 調剤薬局との連携で必要備品の購入等。 柔軟な支援体制は出来ている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会や、包括センターの協力はありますが、まだまだ出来ていないのが現状で、地域資源の活用は今後の課題として考えている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院との関係は良い。 家族の希望があれば、望みの病院の受診をしてもらっている。	本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。また、医師の往診や看護師との連携で適切な医療を受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	情報を共有し適切な対応を出来る様に支援している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、定期的に様子を見に行き、家族より情報を得て、早期退院に向け支援している。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	必要になった場合は本人と家族の思いを最優先に考え、医者、看護師と相談し対応を判断し、出来ると判断した場合は、チームとして支援に取り組んでいる。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習会を実施。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の実施。地域への連絡体制の依頼もしている。	スプリンクラーの設置が完了している。また、年2回避難訓練の実施や救急救命の訓練も実施している。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	心がけて対応しているが、つつい出来な事もあり、定期的なミーティングが必要と考えている。	身体拘束廃止や虐待防止の研修を通じて、誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないように周知している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	働きかけているが、中々思いや希望は聞かれない。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に支援しているが状況により、都合を優先する事もある。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみは綺麗で居られる様に支援している。必要な方には、化粧道具を準備し促がしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や片づけを負担にならない方と一緒にこなっている。	一人ひとりの好みや力を活かしなが らおしぼりたたみや食事の準備、後片付け等職員と一緒にこなしている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を活用し把握している。			
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けが必要な方への介助をこなしている。			
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を活用しパターンを把握。必要な時、素振りがある時は声掛け誘導している。	排泄チェック表で排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるように支援している。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳や乳製品の活用等で個々にあわせて支援している。			
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現状では希望通りの入浴は難しく、職員の都合にあった時間帯の入浴になっている。その日に入りたいと希望があった場合、希望を聞けるようにしている。	一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて支援している。また、本人が希望すれば曜日が対応可能となっている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はロビーのソファで自由にくつろげるようになっている。夜間は、一人ひとりの状況に応じてDrと相談し薬を服用している方もいる。			
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬一覧表がファイルされており、いつでも確認出来る様にしている。			
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	2ヶ月に1度の大正琴のボランティアの受け入れや、週に1回ゆりの日をもうけゆったりと時間を過ごせるように支援している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力は必須。 その時により、希望通り外出できる時もあるが、出来ない時もある。その様な場合は、なぜ出来ないのか説明をしている。	一人ひとりの希望にそって、散歩等戸外に出かけられるように支援している。 また、遠方へ出かける場合には家族と協力しながら支援できるように話し合っている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できる方は、所持し使える環境を作っている。 現状管理できない方がほとんどになっている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には自ら電話をかけられるように、家族とも相談し行なっている。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファや椅子を利用して居場所を作っている。不快に感じるような物等には気を付けている。 季節感が感じられるように工夫をしている。	鉄筋コンクリートのグループホームで共用空間は広く、ゆったりとして利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。また、季節毎の飾りつけや調理の物音が聞こえるなど生活感や季節感を採り入れて、本人が居心地良く過ごせるよう工夫している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	置いてあるソファがいつの間にか自分専用の場所と定着し居心地の良い場所になっている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談し、居心地の良い空間になっている。介護が必要になった場合も、相談しどちらにも負担にならない様に工夫している。	居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れた家具や寝具、家族の写真等が持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	状況に合わせ、負担にならない様に工夫し支援している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901225		
法人名	有限会社 ほほえみゆたか		
事業所名	グループホーム すてきだね(ゆたか館)		
所在地	旭川市東光15条5丁目2番12号		
自己評価作成日	平成23年1月25日	評価結果市町村受理日	平成23年2月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・その人らしい過ごし方を尊重し、いつも笑顔の絶えない生活を支援している。 ・その人らしく笑顔で毎日をご過ごせる様、家庭的な雰囲気職場作りを目指している。 ・入居者さんの安心安楽に努め、優しく、時には厳しく、家族の様なつながりを持ち見守りを行なっている。 ・家庭的な雰囲気では明るい職場。入居者さん家族とのコミュニケーション作りにも積極的に取り組んでいる。 ・お昼寝という新たな取り組みにより、体調管理、生活のリズムの確保が出来た。お昼寝を希望されない方にも、ゆっくりを間わる事が出来精神の安定につながった。スタッフにもゆとりが出来た。 ・入居者さんがいつも笑顔で過ごせる様に家族の様に見守り、つながりを大切にしている。 ・一人ひとりのペース、生きがい、何よりも毎日楽しく安心して暮らせるよう心掛けている。 ・入居者さんとの信頼関係が築けるように日々の関わりを大切にしている。スタッフも笑顔で居られる様に心掛けています。 ・全ての入居者さんが安心して暮らせるように見守っている。 ・2ヶ月に1度の大正琴のボランティア訪問をして頂き楽しんでもらっている。 ・母体である山下整形外科PTの協力の下リハビリに通い体力低下の予防を行なっている。 ・皆さんが楽しんで頂ける催しを色々計画している。(バスを利用した外出・お祭り・花火大会等)
--

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172901225&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成23年2月9日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)				項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目		取り組みの成果 該当するものに 印		項目		取り組みの成果 該当するものに 印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほほ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほほ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほほ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元との関係 者とのつながりが広がり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほほ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほほ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に意識して入居者さんが笑顔で暮らしていただける様な支援に取り組んでいる。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者さんと一緒に町内清掃等へ参加、ほほえみ祭への参加、スタッフが町内会ポータリング大会へ参加。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	努力しているが、発信する事が出来ない。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	話し合いを行なっているが、課題は残っている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護高齢課や地域包括センターと積極的に連絡を取り、協力関係を築いている。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に該当する行為は行なっていない。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全スタッフが、愛情を持って支援している、虐待防止についても意識を統一して取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	その都度、話し合いを行っており、参考書類をいつでも閲覧できるところにおいている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	十分な説明を行い理解納得を図っているが、課題はあると思う。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関に意見箱の設置している。 面会時にこちらから聞く体制を表し、意見・要望を取り入れている。		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日頃から意見交換をしている。 要望があれば、全体で話し合う機会を設け、スタッフの意見を反映させている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	現場管理者より、個々の実績報告を受け状況を把握し査定、賞与にて反映している。 介護職員処遇改善交付金の申請を行い、介護スタッフに全て支給している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	資格取得への支援 外部研修の参加、勉強会を設け取り組んでいる。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	包括センターの勉強会へ参加 スタッフの交流の機会は今後の課題。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>情報収集をし、常にご本人の言葉に耳を傾け、入居者さん本位の視点から支援を検討して、信頼関係を築く様努めている。</p>			
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>面会時にコミュニケーションを取っている。家族さんの要望・意見を聞き入れ、密に連絡を取り合えるよう努めている。</p>			
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>ご本人やご家族の希望に添い、医療関係者との連携を含めたサービス支援を行っている。</p>			
18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>家族のようなつながり、愛情を持って支援をしている。喜怒哀楽を共にし、支えあえる関係を築いている。</p>			
19		<p>本人を共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>初期段階で共に支え合う事について十分な説明、理解を得ている。本人を中心に家族支援にも力を入れている。</p>			
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>努めているが、入居者本人が徐々に出来なくなって来ている。</p>			
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>入居者さん同士の関係に配慮し、席替えや軽作業の役割分担などを行い、その時々状況に応じてスタッフが間に入り、孤立しない様に支援している。</p>			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話や手紙等で近況を伺っている。相談・支援について体制も出来ている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者さん本位に考え、希望に添うように努めている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や既往歴の把握に努め、それぞれに沿った支援をしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの心身状態や出来る事に注目し、希望に沿った支援を行なっている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族と常にコミュニケーションを取っている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	様子や心身状態、ケアの実践結果について個別に記録し情報を共有する事で次のケアに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	母体である、山下整形外科でのリハビリの活用。 調剤薬局との連携で必要備品の購入等。 柔軟な支援体制は出来ている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会や、包括センターの協力はあるが、まだまだ出ていないのが現状で、地域資源の活用は今後の課題として考えている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、家族の希望に沿い心身状態に合わせ専門機関への受診を行なっている。 医療機関への相談、アドバイスを受け連携している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者さんの心身状態の把握。必要な処置、受診など看護師と協働し支援している。 ケアへのアドバイスも受けている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	週に1回の面会を行い、入院先の病院関係者と情報交換。心身状態の把握し、早期に退院できる様、協働している。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	心身状態の低下の段階で医療機関と考えられる重度化、終末期について話し合い、家族と今後について十分な話し合いを行い支援している。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救命講習を行ない、急変時に備えている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行ない、災害時に備えている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に言葉使いに気をつけ一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを確保して支援をおこなっている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者さん本位、自己決定の視点からご本人の希望を取り入れられるように努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせた支援に努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族、ご本人の好みや希望に添った支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者さんのやる気に働きかけ、一人ひとりの出来る力に応じて役割を持って、準備、片付け等を一緒に行っている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量を記録に残し、スタッフ間で情報を共有し不足の無いよう支援している。一人ひとりのペース状態に合わせて工夫をしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、うがい、義歯洗浄など一人ひとりの状態に合わせて支援している。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄のパターンを把握し、声掛け、誘導など支援を行っている。また、出来る力を活用し過剰支援にならないように努めている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄、水分摂取量のチェックを行い、乳製品の摂取、運動を勧め予防に努めている。また、医療と連携し必要に応じ、薬の服用をしている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの状態希望に応じて気持ちよく入浴出来る様工夫している。時間帯について、必ずしも入居者さんの希望に沿った支援は行なわれていない。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者さんの希望に沿い、昼寝や休息が出来るように支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬について全てを理解できていないが努力している。服薬チェックを随時行い、変更時には申し送りをし、症状の変化を確認している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの好きな事、得意な事等を把握し、その時々状況に応じ希望や能力に沿った豊富なレク支援を行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じ、一人ひとりの希望や健康状態、天候などを考慮し出来る限り外出の機会を作る様に努めている。家族の協力も一人ひとりの心身状態、関係によって難しい方が多い。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っている事で精神不安になる方は所持を控えている。希望、管理能力に応じて少額のお金を所持してもらっているが、使う機会がない。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一人ひとりの希望に沿って支援してる。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者さんと共に季節を感じられる様な作品を作り飾り付けを行なっている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	台所、食卓、リビングが直線に構造されており、一人ひとりが思い思いの場所で過ごせる様、椅子ソファを配置している。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの入居者さんが過ごしやすい様な家具の配置や使い慣れた物を置いている。 心身の状態に応じて配置換え等も行なっている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置や段差の解消など、安全に配慮した空間作りを行なっている。		

目標達成計画

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議の定期的開催が出来ていない	運営推進会議定期開催	年間予定を立てる ・日程 ・内容 ・構成メンバー	12ヶ月
2	7 14 17 34	その都度、話し合いをしているが改めて学ぶ機会を設けていない。 同業者との交流の場がない 薬についての理解が不十分である 救命講習会以外の勉強会がない	介護力の向上	・勉強会の開催 ・研修会への参加 ・資格取得の支援 ・他施設への見学 など	12ヶ月
3	45	入浴日・時間帯が希望に沿った支援が行なわれていない	入浴支援の改善	・入浴による心身への効能を知る。 ・希望に沿う為のスタッフ配置や体制を検討する ・入浴体制の見直し	12ヶ月
4	49	必ずしも希望に沿ったが外出支援が出来ていない	外出希望が聞かれた時の柔軟な対応	・希望に沿う為のスタッフの配置や体制を検討する	12ヶ月
5	29	町内会、包括支援センター以外の活用は出来ない。	地域資源の活用	・町内会との関係強化 ・警察や消防の協力体制 など	12ヶ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。